

# 令和3年度 島根県立矢上高等学校 学校評価

分掌による自己評価 4: 良い 3: だいたい良い 2: 少し改善すべきだ 1: 改善すべきだ 0: わからない						目標値・評価欄 A 3.0以上 B 2.9~2.5 C 2.5未満		学校関係者評価委員会評価	
部署	目標	校内評価	成果と課題	来年度の取組み	(ABC)	記述意見			
総1	1. 各分掌、学年会、各種委員会、矢上高校魅力化センター等との連絡調整に努め、学校行事の円滑な運営と学校の活性化を図る。	A	3か月ごとの行事予定表を作成し、運営委員会や職員会議を通じて調整を図ることができた。	次年度の行事予定作成に際し、早い段階から行事の精選を意識して検討することができるよう作成スケジュールを組む。	A	学校が地域に守られている点を町外からの生徒募集にPRしてほしい。			
総2	2. 学校からの活発な情報発信を行い、家庭や地域の認知度を高める。	A	現在、「日に1件更新」を目標にホームページの更新を行い、目標は達成されている。保護者からも学校の様子がわかると高い評価を得た。	今後もスピード感をもって情報発信を行っていききたい。適切な情報発信を行うためにチェック体制を確立する。					
総3	3. 全国高等学校PTA連合会島根大会における資料広報部会の役割を果たす。	A	オンラインでの開催となったため、資料広報部会としての役割は大会要項の作成(アトラクション紹介)のみとなったが、他校と連携をとりながら完成させることができた。	コロナ禍の中、PTA活動ができない状況があるが、工夫をしながらできる活動の機会をつくる。					
総4	3. 図書館の利用環境を整え、読書活動の推進を図る。	A	今年度、ネットを使って図書館(本校)の本を検索することができシステムを導入した。このシステムを使い、借りた本を予約することも可能となった。今後、更に貸出数が伸びることを期待している。	授業における図書館の活用事例を紹介するなど、授業での活用機会を増やす。					
教1	1. 生徒が主体的に取り組める授業の実践。	A	魅力化とタイアップして互見授業を実施した。昨年度より多くの先生方が参加した。	生徒の主体性を伸ばすために振り返りシートを利用したい。	A	産業技術科と普通科のつながりを意識した活動を取り入れてみてはどうか			
教2	2. 現教育課程の円滑な実施と新教育課程の作成。	A	新課程1年目のものについては作成できた。	大学入試を見据えた教育課程の編成					
教3	3. 業務の平準化および他分掌等との協力体制の確立。	A	オープンスクールや支援の必要な生徒の対応等、他分掌や学年会と協力することができた。	次年度以降も同様に取り組む。					
生1	1. ルール・マナーを守った基本的習慣を確立する。	A	(成果)基本的にはしっかりと学校生活を送っていた。(課題)ルール・マナーや、スマホ使用方法などについて責任ある行動を考えさせること。	生徒心得の検討、及び学校をあげての指導を継続。	A	いじめ問題への取り組みはアンケートのみではなく、生徒の声を普段から聞ける場を設けて欲しい。			
生2	2. 自他を尊重し、他者と協働して明るく元気な学校づくりをする。	A	(成果)見守り活動など地域への貢献。(課題)よりよい人間関係づくり。	人権教育の充実、及び丁寧で粘り強い指導の継続。					
生3	3. 目標に向かって主体的かつ誠実に行動する。	A	(成果)部活動においてインターハイや中国大会への出場。(課題)コロナ禍による生徒会行事、部活動の制限。	活動内容の工夫。					
進1	1. 三年間を見通した計画的な指導を行い、進路目標を主体的に設定させる。	A	大半の3年生が進路実現をしたが、受験時期になってからは補えない経験が必要である。	キャリア教育全体と絡めて再検討が必要である。	A				
進2	2. 一人ひとりの希望に即したきめの細かい指導を行い、進路目標を実現させる。	A	成果を残した一方で、担当の先生方への負担をおかけしたところが大きい。	指導の対象を絞り、効果的な内容となるよう目的を明確にしていく。					
進3	3. 生徒が学ぶことと将来のつながりを見通しながら社会的・職業的自律ができるよう支援する。	A	ガイダンスや職場見学の機会をもち、生徒への情報提供できたが、効果的な時期と内容であったかを再検討が必要である。	ガイダンス等の時期と内容を見直す。					
保1	1. 生徒の心身の健康状態を把握し、かつ適切迅速な対応をする。また、より快適で安全な教育環境の実現に努める。	A	先生方のご協力や学校医から助言をいただくことで適切かつ迅速な対応ができた。	今年度同様に、先生方、学校医と協力していきたいと思えます。	A	感染対策は大変だったと思う。			
保2	2. 学校環境の美化に努める。	A	清掃指導など先生方にはお世話になりました。	清掃に気持ちよく取り組めるよう清掃道具などを充実させたい。					
保3	3. 相談活動の充実を努める。	A	外部と連携することで、より専門的な立場から意見を伺うことができた。	学年会、外部と連携しながら進めていきたい。					
舎1	1. 生活の規律化による学習の充実。	A	寄宿舎内での問題行動が多かった。そのため、落ち着いた学習に取り組むようにする指導が徹底できなかった。	上級生を中心に寮内での学習の取り組みについて協議を行い、しっかりと学習環境が作れるように支援していきたい。	A	寮をとりまく地域の活動を積極的に取り入れ、PRして欲しい。			
舎2	2. 寄宿舎生の健康の保持を図る。	A	コロナウイルス感染症の対策をしっかりと行ったことで、寄宿舎内での感染の広がりがなくて良かった。また、個別に対応が必要な生徒への配慮をすることができたと思う。	引き続き、コロナウイルス感染症の対策や個別の対応が必要な生徒へきめ細やかな対応をしていきたい。					
舎3	3. 寄宿舎行事の充実を図る。	A	コロナウイルス感染症のため行事を行うことが難しかったが、クリスマス会は感染症対策を行いながら実施できて良かった。	コロナウイルス感染症の対策を行いながら、可能な限り寮生が楽しめる活動をしていきたい。					
産1	1. 専門学習の深化を図ることで資格取得の推進を図る。	A	資格取得については、農業技術検定3級について1年生40%(12名)、2年生40%(計18名)であった。2級については、合格者がなかった。資格取得に充分に行えないところもあった。	コースに応じた資格を考えながら、1学期から指導・受験をさせていきたい。	A	普通科と産業技術科がうまく連携を取れているのが矢上高校の特色となっている。			
産2	2. 課題研究を充実させることで、各コースにおける特色ある教育活動を実践する。	A	各コースの特長を生かした、課題研究に取り組んだ。3年生はまとめるところで十分に指示が伝わっていないこともあった。2年生は1年間の取り組みのいつまとめ発表ができた。	地域の課題を考えながら、課題の設定をさせていきたい。2年生の計画発表を実施したい。					
産3	3. 関係機関や地域との連携による教育活動を実践する。	A	地域と連携しながら、現在できる教育活動が実施できた。産業祭では、より学習内容の発表をできるようにしていきたい。	生徒の学習になる活動を取り入れていきたい。					
1年1	1. 基本的な生活習慣の確立。	A	まだまだ不十分な点は多々あるが、少しずつ成長してきたと思う。授業は最初の「挨拶」などはもう少しきちんとできるように指導を続けていきたい。	3年間継続して根気強く指導を続ける。	A				
1年2	2. 人権尊重の精神と態度の確立。	A	憶測による友人への悪口など、学年前半では数件このような事案が見られたが、多くの先生方の指導により、思いやりの意識が芽生えつつある。	今年度同様に、「他人への思いやり」の気持ちをもつことの大切さを指導していく。					
1年3	3. 自主的な学習態度の確立。	B	一部の生徒を除き、まだまだ不十分な点が多い。担任を中心に、学年部としても継続して指導していきたい。	クラス状況によっては、教科担当者会議などを開催して、生徒の状況把握に努める。					
1年4	4. キャリアの形成。	A	小林さんの手厚い協力により、探究学習や進路学習を通して、計画的な学習ができていく。	魅力化や進路指導部と連携しながら継続していきたい。					
2年1	1. 基本的な生活習慣の定着。	A	SHR等で声がけをしたり、STEPで振り返りをさせたり、個別に話をしたりすることにより、生活習慣が定着している生徒も多い。しかし、提出物を期限内に出せない生徒もいた。	自己管理をしっかりさせ、基本的な生活習慣が定着するよう取り組ませる。	A				
2年2	2. 人権尊重の精神と態度の定着。	A	生徒会活動・部活動・地域の方々との課題解決学習等、様々な活動を通して、自他を認め、協力して進めることができた。しかし、しっかり相手のことを考えずに行動することもあった。	相手を尊重し、互いに支援し合えるよう取り組ませる。					
2年3	3. 自主的な学習態度の定着。	A	概ね授業に取り組む姿勢が良いが、課題の取り組み状況には差がある。	授業に集中して取り組ませるとともに、主体的に課題に取り組ませる。					
2年4	4. 進路目標の具体化。	A	進路調査・模試・大学訪問・企業訪問・進路学習等の機会を通して、進路について考えさせたり調べさせたりしながら、担任や保護者と相談し、具体的に定めつつある。	進路目標を具体的に考えさせ、進路実現をするために、早めに行動を起こさせる。					
3年1	1. 基本的な生活習慣の定着。	A	挨拶についてはよくできた。進路決定後の生活指導に課題。	進路決定後の生活指導を考える	A				
3年2	2. 人権尊重の精神と態度の定着。	A	SNSについて色々な場面で指導してきたが、ネット上の恐ろしさについて繰り返し指導が必要。						
3年3	3. 自主的な学習態度の定着。	A	授業前には小テストに向けて努力する姿が見られた。日々の課題提出の定着が課題。						
3年4	4. 進路目標の実現。	A	目標に向けてよく努力した。国公立の推薦については、もっと早くからの指導が必要。	国公立推薦の意識付け、材料作りを早くから行う					

魅力化1	1.新学習指導要領に則した教育内容の充実を図るとともに、授業力の向上に取り組む。	A	教務と連携して教育課程の作成や評価の検討を進めてたが、完成がぎりぎりになってしまった。	生徒の主体性や積極性につながる評価にする。	A	高校入試の倍率が1.0を超えたのはすばらしい。町立高校なのではと思うくらい町民の方々や施設につながりを持っている学校でとても誇りに思っている。
魅力化2	2.新将来ビジョンの策定、魅力化コンソーシアムの構築を行って地域との連携を強化し、学校の魅力化・特色化をさらに進める。	A	コンソーシアム元年だったが、地域や役場との連携、先生方の支援、学校の魅力化が進んだ。	先生方の要望を聞きながら各部会の活動を活性化させたい。		
魅力化3	3.安定した入学確保をめざす。	A	志願倍率1.0倍以上、町内中学校70%以上と言う目標が達成できた。	教務と相談して1年間の生徒募集のスケジュールを作りたい。		
事務室1	1.連絡、相談を通じて全職員との情報交換を密にし、必要な情報の共有に努める。	A	随時、メールや職員朝礼を通じて情報を共有することができたが、十分に情報が伝わらないケースも見られた。	引き続き情報交換を密にし、わかりにくい事柄は丁寧に説明するようにする。	A	
事務室2	2.経費の節減を図り、効果的な予算執行により教育環境の整備に努める。	A	新型コロナウイルス感染症対策に係る予算配分を活用できるものは効果的に執行できた。これにはまりにくいものは工夫が必要である。	早い段階で整備が必要なものを整理し、教職員の要望を確認しながら整備に努める。		
事務室3	3.効率的な運営に向けた業務の点検に努める。	A	文書管理システムの利用推進や私費会計管理の簡素化、適正化が進んできたが、未熟な点もある。	各種課題を整理、集約する仕組みを検討する。		
学校運営1	1.習熟度別授業、少人数指導による生徒の学力や到達度に 応じたきめ細かい指導	A	授業に加え、生徒個々に応じた指導により、生徒の学力は向上している。	教科により目標到達度に差がある場合もあるので、模試結果を教科会や学年会で十分に検討してほしい。	A	町財政をはじめ、地域を挙げて学校を支援して行うという体制があるのでこれをチャンスと捉え、生徒個々に思い切って自由な学校生活をするように促して欲しい。先生方の多忙さは生徒を個別に丁寧に指導するところから来ていてありがたいが、少しでも休めるようにして
学校運営2	2.地域住民、地元企業との連携による探究的・協働的な学び	A	コンソーシアム設立よ文科事業の展開により、や地域との協働による学習は年々成果が上がっている。	文科事業については、事業最終年としての集大成の部分と、事業終了後を見据えた部分と、両方を意識して取り組む。		
学校運営3	3.「自律・成長の場」「地域参画の場」となるような寄宿舎の運営。	B	本年度はコロナ対策に追われた上、重大な生徒指導事案が複数発生し、年間を通じて落ち着いた期間が多かった。	安心・安全な場となるよう、引き続き取り組む。外部舎監を増やし、教員の舎監負担を漸次減らす予定。		
学校運営4	4.多忙・多忙感の解消につながる「働き方改革」の推進	C	年休の取得は昨年度よりも多くなったものの、時間外勤務は昨年より大幅に増加した。人的配置や意見を反映した具体的な取り組みはしたが、全体としての「多忙・多忙感」の解消はできなかった。また、メンタルヘルスに効果的な職場の会なども開催できなかった。	働き方改革の必要性や「多忙・多忙感の解消」とは何をもってゴールにするかの意識の共有をはかる。その上で行事・会議の精選や、ICT化の推進、舎監業務・部活動等の外部人材への移行を教職員の意見を反映しつつ推進する。		